

コラム 良好な景観形成を通じた地域の魅力向上やまちづくりへの技術支援

地域景観エッセイでは、道路関係の構造物・付属物のデザインや景観対策、及び地域の景観まちづくりなどに関して、北海道開発局や地方自治体等の技術相談に応える形で、技術指導を行っています。

例えば、大雪・富良野や十勝エリアのシーニックハイウェイ4ルートの活動団体、北海道ガーデン街道協議会などが一体となって進める「100年の木プロジェクト」（ルート沿いの要所にガーデン街道を印象づける共通の「サインツリー」を植樹する取り組み）では、地域景観エッセイから効果的な植栽地点や配置などについて提案を行っています（図-1、写真-1）。平成24年以降、地域住民を交えた植樹祭が行われ、関係者や地元からは将来の良好で印象的な沿道景観が期待されています。

また、十勝岳連峰を望む国道237号のビューポイント駐車場の改修に際しては、北海道開発局旭川開発建設部からの技術相談に対し、景観とコストが両立する技術的な提案を行いました。旧来の本駐車場は優れた眺望を有しながらも、心地よく楽しむことが出来る空間ではありませんでした。今回の改修にあたり、柵類の素材・形式、駐車区画の削減と当該部分の舗装の素材と色彩の変更、眺望を損ねる植栽の除伐などの土木研究所の指導内容が実際に採用され、眺望風景と一体となった居心地の良い空間が実現されました（写真-2、3）。改修後の現在は、旅行者や地元住民に多く利用されるようになっていきます（写真-3）。なお、これらの指導内容には、地域景観エッセイの重点研究「空間認識を利用した歩行空間の設計技術に関する研究」（平成23～26年度）による研究成果が活用されています。

そのほか、地方自治体等の景観まちづくりを支援するものとして、道内市町村等の要請に応じた講演や現地指導等に積極的に対応しています（写真-4、5）。

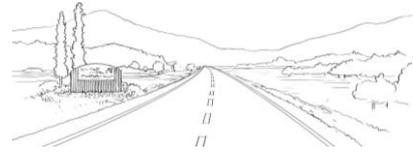


図-1 効果的な植栽のイメージ提案



写真-1 植栽地点の検討風景
（現地指導）



写真-2 整備後の広場と
十勝岳連峰への眺望



写真-3 駐車区画を削減した部分
の舗装仕上げと利用風景



写真-4 芽室町での講演の例



写真-5 増毛町での現地指導の例